

責任者 コーディネーター	全学教育推進機構長 佐藤洋一教授 医学教育学講座地域医療学分野 伊藤智範教授 教養教育センター人間科学科心理学・行動科学分野 相澤文恵教授				
担当講座	医学教育学講座地域医療学分野、教養教育センター人間科学科心理学・行動科学分野 (医学部)内科学講座消化器内科肝臓分野、内科学講座消化管分野、内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野、 内科学講座循環器内科分野、内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野、内科学講座血液腫瘍内科分野、内科学講座脳神経内科・老年科分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科学講座、形成外科学講座、産婦人科学講座、小児科学講座、耳鼻咽喉科学講座、皮膚科学講座、神経精神科学講座、放射線医学講座、麻酔学講座、臨床検査医学講座、救急・災害・総合医学講座救急医学分野、救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野、病理診断学講座 (歯学部) 歯科保存学講座う蝕治療学分野、歯科保存学講座歯周療法学分野、補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野、口腔保健育成学講座歯科矯正学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔医学講座関連医学分野 (薬学部) 薬科学講座創薬有機化学分野、薬科学講座構造生物薬学分野、薬科学講座分析化学分野、生物薬学講座機能生化学分野、生物薬学講座生体防御学分野、病態薬理学講座臨床医化学分野、医療薬科学講座創剤学分野、医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座、看護専門基礎講座				
担当教員	伊藤智範教授、相澤文恵教授、(医学部) 滝川康裕教授、梁井俊一講師、武部典子講師、木村琢巳助教、平野邦夫助教、岡野良昭助教、水野昌宣講師、新田浩幸准教授、吉田研二講師、坪井潤一助教、出口博之准教授、三又義訓助教、本多孝之講師、羽場巖助教、平井大士特任講師、及川伸一助教、渡辺彩乃助教、三田俊成助教、及川博文特任講師、大畑光彦准教授、七崎之利助教、鈴木泰准教授、山田哲也助教、上杉憲幸講師 (歯学部) 千田弥栄子助教、菅 徹也助教、村井治助教、滝沢尚希助教、田邊憲昌准教授、畠山航助教、横田潤助教、山田浩之教授、角田直子助教、山谷元気助教、佐藤健一教授、佐藤雅仁准教授、星野正行助教、佐藤和朗教授、氏家隼人助教、岸光男教授、千葉俊美教授 (薬学部) 河野富一教授、田村理准教授、野中孝昌教授、藤本康之准教授、牛島弘雅助教、中西真弓教授、關谷瑞樹助教、大橋綾子教授、白石博久特任教授、那谷耕司教授、大橋一品准教授、高橋巖助教、佐塚泰之教授、杉山育美助教、小澤正吾教授、幅野涉准教授、寺島潤助教、杉山晶規教授、川崎靖助教、工藤賢三教授、朝賀純一准教授、高橋宏彰助教、西谷直之教授、佐京智子助教、高橋寛教授、松浦誠特任教授、奈良場博昭教授 (看護学部) 嶋森 好子教授、三浦 まゆみ教授、末安 民生教授、宮本郁子教授、高橋亮教授、蛸崎奈津子教授、遠藤龍人教授、秋山 智弥特任教授				
対象学年	6 (医歯薬) 4 (看護)	期 間	前期	区分・時間数	演習 8時間

■ 学習方針 (講義概要等)

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、修得した医学・歯学・薬学・看護学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多角的に検討する。

■ 教育成果 (アウトカム)

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、患者と家族、あるいは職種間での適切なコミュニケーションを行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。医 DP 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 歯 DP 2, 3, 4 薬 DP 2, 3, 5, 6 看 DP 2, 3, 4, 7

■ 到達目標 (SB0s)

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を説明できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点を抽出し、解決策を提示することができる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスにおいて、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒に病の克服に向けた活動をするための、インフォームド・コンセントや生活指導を試みる。

■ 成績評価方法

ルーブリックでチーム作業評価 (60%) し、他発表会評価 (20%)、成果物評価 (20%) により評価する。欠席者については別途課題を指示指定するものとする。

■ 事前学修時間・内容

指定された症例の事前課題について、各学部の専門分野に基づき教科書や参考書等を利用して調べ、**学部内で討議し治療方針の根拠や注意点について他学部に説明できるよう準備すること。同作業には、およそ7時間以上を要する。**

■ 特記事項・その他

開催日：令和2年4月18日(土) 9:00-17:00 会場：矢巾キャンパス